

たいせつなたからもの

うずらちゃんのとからもの (Eキ)

きもと ももこ／さく 福音館書店



今日はうずらちゃんのお母さんのおたんじょうび。うずらちゃんは、お母さんにキラキラのきれいなおくりものをしようと、なかよしのひよこちゃんとたからさがしに出かけます。

うずらちゃんはお母さんに何をおくるのでしょうか。

くまの子ウーフのとからもの (Eヒ)

かんざわ としこ さく ひろせ げん え ポプラ社

くまの子ウーフは山の中でドロップみたいな赤いちいさなものをを見つけました。ウーフはその赤いものをたからものにして、木のうろに大切にしまいました。ところが、次の白にうろの中を見ても、たからものはありません。ウーフのたからものはどこにいったのでしょうか。

わたしはだいになたからもの (Eデ)

カール・ノラック／ぶん、クロード・K. デュボワ／え、
こうの まりこ やく ほるぷ出版



ロラはおうちでいろんなよばれ方をされます。ちびちゃん、かわいようせいさん、だいになたからもの。でもそれを友だちに言うとうわわられてしまいます。ロラは子どものときになんてよばれていたか、まちの人たちにきいてみることにしました。

カタカタカタ (Eリ)

リン シャオペイ／さく、宝迫 典子／やく
ほるぷ出版



ペダルをふむとカタカタカタと音になる。それはおばあちゃんのとからもの。スカート、リュック、大きなふくろ、なんでも作れるカタカタカタ。

けれど、ある日カタカタカタがうごかなくなってしまう…。

うみのたからもの (Eタ)

たかお ゆうこ／作、加瀬 友喜／監修 講談社

うみべでかいがらを見つけたら、手でもってみよう、ゆらしでみよう、じっとみつめてみよう、耳にあててみよう。かいがらの中からいろんなふうけいが見えてきます。

読むとうみに行きたいくなるこの絵本は、夏が近づく今のきせつにピッタリです。

たろうめいじんのたからもの (Eコ)

こいで やすこ／さく 福音館書店



あついなつのひ、きつねのきつこがすいかとみずぎをもって、いたちのちいといのいえをたずねると、ちいといはとでもきれいなみどり色の石をくびにさげていました。うまくおよげるようになった

からもらえたというその石を、きつこもほしがり、およぎのれんしゅうをはじめます。

ほっきょく たから 北極の宝もの (Eホ)

ダナ・スミス／文、リー・ホワイト／絵、
みはら いずみ／やく あすなる書房



北極の冬はどこを見ても白色の世界。色がどこかへ行ってしまったような世界で、主人公はあざやかな色をのぞみつづけています。そしてあるばん、ここにしかないたからものをめざして、いえの外へと出ていきます。

ほしぞらのたからもの (Eト)

とよふく まきこ／作 BL出版

ネコだけがすむネコのむらでは、さかなをつったり、ことりをおいかれたり、ねずみをさがしてはしりまわったりするまいにち。

それなのにことりやさかなをかわいがっているネコがいました。「それってへんだよ」とほかのネコが言ったけど、ほんとうにそうでしょうか？

ベンジャミンのとからもの (Eウ)

ガス・ウィリアムズ／作、こだま ともこ／訳
あすなる書房



クローバーがおかにすむウサギのベンジャミンが、さかなつりのためにポートでうみにでると、天気かわるくなりにはげしいあめにうたれてしまいます。あれるなみにながされてベンジャミンはうみでまいごになってしまいました。はたしてぶじにいへへとかえることはできるのか。ドキドキの大冒険です。